

学校名 (生徒数)	米原市立河南中学校 (98人) 生徒数 1年生44名、2年生29名、3年生25名 合計98名
--------------	---

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：米原市河南295番地

電話番号：0749(54)1129

【研究の目的，研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

[国語A：主として知識]

課題：《言語》語句の意味を理解する（ことわざ）。

《話す・聞く》目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。

[国語B：主として活用]

課題：《書く》根拠を明確にして自分の考えを書く。

複数の資料を比較して読み、要旨をとらえる。

「書くこと」の「記述」と「活用」に課題がある。

[数学A：主として知識]

課題：《数と式》数量の大小関係を不等式に表す。

《関数》関数の意味を理解する。

[数学B：主として活用]

課題：《図形》証明を振り返って考える。

《関数》問題解決の方法を数学的に説明する。

(2) 課題解決に向けた改善策

1) 短期的に取り組むこと

* 学力調査の分析結果から見えてきた課題を、校内研究会などの場で教師が共通理解する。

* 国語科・数学科の授業で「学力調査」で明らかになった課題を意識し、授業改善を行う。

* 定期テストの問題に、課題と関連する問題を取り入れて出題する。

2) 中・長期的に取り組むこと

校内研究の具体的実践として、次の「重点5項目」を各教科通じて実践する。

① 授業で「めあて（課題）」を提示

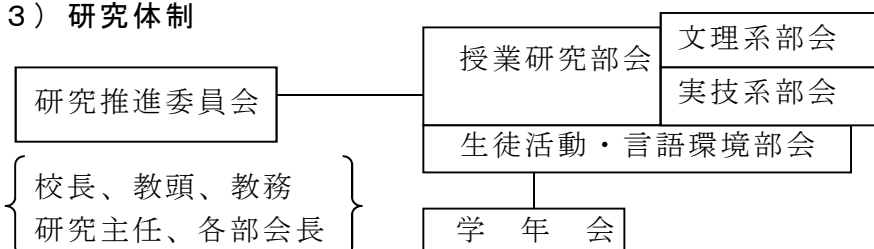
② 教科独自の工夫（思考→判断→表現という流れを学習指導・活動に意識的に取り入れる。）

③ 教え合い学習（学習集団づくり）・・・4名班等の少人数グループの活用

④ きめ細かな指導（個別の対応）

⑤ 「読解力」・「書く力」の育成

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月 3日 (木) 推進委員会 研究計画・部会の実践計画構想
- ・ 4月 9日 (水) 全体会 本年度の研究主題および内容・組織の提案
- ・ 4月25日 (金) 全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・ 5月 7日 (水) 全体研究会 部会・研究会の内容説明・指導案の形式提示
部会の研究目標（めあて）、研究内容、授業者の決定
- ・ 6月10日 (火) 第1回全体授業研究会⑤校時 3年生（道徳）：「ドナーカード」
- ・ 8月25日 (月) 全体研究会（全体研修会：講話）
ワールドカフェ（講師：県教委 白石指導主事）
- ・ 9月11日 (木) 第2回全体授業研究会⑤校時 3年生（国語科）：小説「故郷」
- ・ 11月14日 (金) 第3回全体授業研究会⑤校時 1年生（理科）
：「いろいろな物質とその性質」
- ・ 2月 3日 (火) 第4回全体授業研究会⑤校時 2年生（社会科）
：「身近な地域の調査」

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- 1) 全国学力・学習状況調査の自校採点から課題を明確にした。

身に付けたい力
必要な情報を読み取り、自分の考えを記述する力

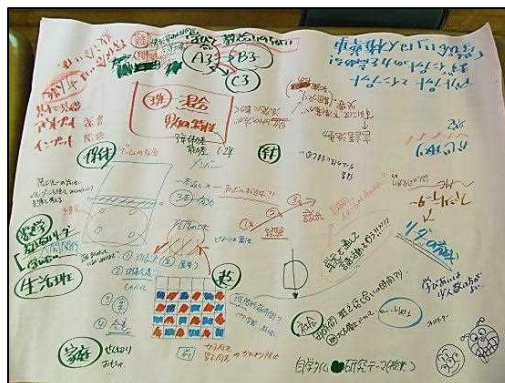
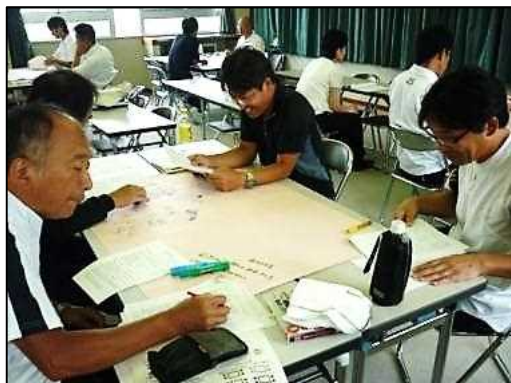
- 2) 校内研究でテーマを設定し、全教師で取り組む。

校内研究会のテーマ
「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践
－伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して－

課題解決に向けた改善策

- ①本校校内研究会の課題として、全教科を通じて取り組む。
- ②つけたい力にせまれる場面はどこかを明確にして、計画や進め方を工夫する。
- ③毎時間、目標（課題）を明示し、そこへ至る手順や、現在の位置を意識させる。
- ④生徒が自らの言葉をつかって思考できるような場面設定をする。
- ⑤各教科における「思考力・判断力・表現力」について指導者が整理、確認する。
- ⑥「つまずき」や「支援」が必要な生徒への効果的な指導を工夫する。
- ⑦「導入・展開・終末」段階の生徒の相互評価・自己評価、教師の評価を指導に生かす。

- 3) 全体研究会で意見交流（ワールドカフェ方式：教師が課題を自覚）



4) 国語科の実践から

授業で大切にしたいこと

教材

小説『故郷』



- ①つけたい力を明確にする 【言語活動】
 どのような学習ができるか？
 (おもしろそうだ。やってみたい学習を。)
- ②主体的な学び
 ③目的意識
 ④見通しと振り返り
 ⑤考えの交流

①つけたい力を明確に

単元目標

- 専門家の立場から、小説『故郷』を解説したり、解釈や評価を加えたりしながら、自分の考えをもつ。
- 小説『故郷』や他の資料から、根拠となる言葉や文を適切に引用して説得力のある文章を書く。
- 小説『故郷』や他の資料を読み比べて必要な情報を読み取り、『故郷』の構成や展開、表現の仕方について評価する。

②主体的な学び

- 1 小説を読む。
- 2 疑問や気づき、感想を書く。
- 3 テレビの対談番組を短時間で視聴する。
- 4 小説『故郷』を題材に対談するとしたらどんな専門家がふさわしいか意見を出し合う。
- 5 なってみたい専門家を選ぶ。

どんな専門家・研究者が対談に出演？

みんなの感想や疑問から出てきた専門家・評論家・研究者

選ぶ



学習形態
 自分がなりたい専門家を決めよう。
 個人で学習してもよいし、チームで取り組んでもよい。

その他に生徒といっしょに考えた専門家・評論家・研究者



目的意識
 選ぶことで学習は主体的になる

なりたい専門家に名前を書きに来る

③目的意識

④見通しと振り返り

- 1 なってみたい専門家を選ぶことで、目的意識は明確になる。
- 2 「学習の手引き」で学習の見通しを立てる。毎時間の「振り返り」。

「学習の手引き」で「目的意識」「見通しと振り返り」を

教師からのアドバイス

学習の手引きと記録

生徒が目標を決める

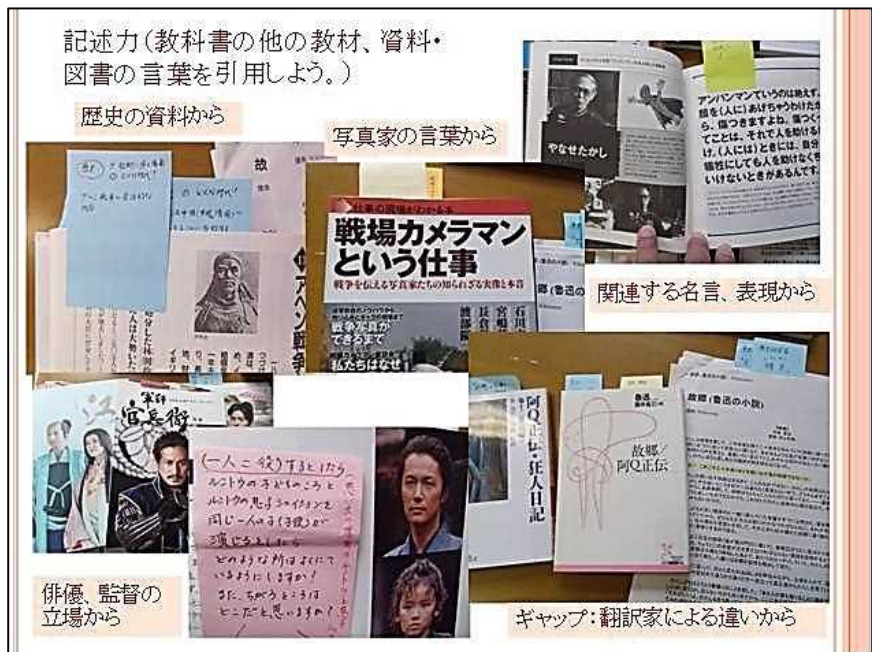
何時間ですか？

二日文字以内で学習後にわかったことを書け

どんな学習が簡単に示す。

⑤ 考えの交流

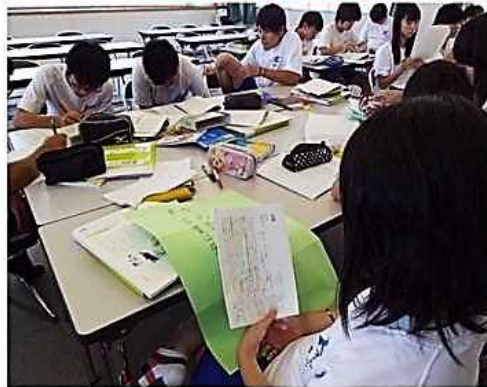
- 1 初発の感想・疑問・発見を一覧表にして配布する。
- 2 専門家の書籍などを用意して、言葉を引用できるようにしておく。
- 3 学習に必要な少人数のグループで学習する。(ゆるやかな小集団学習：必要な相手をその都度選んで学習する小集団学習)
- 4 発表は他の専門家と意見交流する。(教師がグループ編成をする。)



③④ 時間目

各自がなりたい専門家・研究者になって課題を追究。

考えを交流



(1) 第一場面「帰郷」教科書2ページ中で専門家として注目する会話や文章を専門家チームで一カ所探す。(できればみんなの感想・疑問の一覧表以外から)

(2) 専門家ごとの代表者が選んだ理由を前に出て紹介する。(根拠を示して。)

(3) 発表を参考に、各自が学習を進めていく。

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

各教科の授業や行事等で「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践－伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して－」をテーマに6年間研究実践してきた結果、全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を上回ることができた。

校内研究会の夏季研修会で「思考力・判断力・表現力を育てる授業実践－伝え合う活動の工夫と言語環境づくりを通して－」をテーマにワールドカフェ方式で話し合いを行ったことで、「つけたい力」に向けて、各教科どのような言語活動を工夫しているかについて活発に意見交流をすることができた。

(2) 課題等

国語科では「書くこと」の「記述」と「活用」に課題があり、数学科でも問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。また、生徒質問紙では規範意識に課題があり、今後も課題解決に向けた実践を続けていきたい。